

ゐのはな会茨城県支部

佐藤 忠夫

千葉大学医学部135周年記念に際して

千葉大学医学部135周年記念に際して、編集委員より、茨城ゐのはな同窓会の会の活動について、との要望がありました。手元にある文献を頼りに茨城ゐのはな同窓会の歴史と現状とあり方について、お知らせ致します。何しろ古いことは解らないことも多く誤りもあると思いますが、お許しください。いつまでも同窓のなかでは若いつもりでいましたが、考えて見ると名簿でもうえの方の年齢となり又千葉医科大学に入学してから60年になり大学135年の歴史のなかで、約半分が同窓であったわけで、ここで書いておけば将来にも参考になることもあるかと思っています。

現在茨城県における茨城ゐのはな会の同窓は、手元の名簿によると、約215名で筑波を中心とする県南に多く、次に水戸を中心とする県中、県北、次に鹿島、行方地区に在住され地域医療に活躍されておられます。歴代の会長については、昭和30年代は水戸で同窓会が開催されることがあり、三宅先生のお話では、会長は中山立三先生、副会長は丸山秀太郎先生で、事務局は茨城県医師会にあり、勤務医として、新治共同病院の小林次郎先生、谷口恒夫先生、桜井実先生が活躍され、水戸で大学関係者を招き、総会、学術講演会がおこなわれていました。

その後は丸山秀太郎先生、石川洋先生、茂在豊喜先生、昨年お亡くなりになった三宅和夫先生その後を継いだ私となっております。

昭和30年町村合併にて、岩瀬町が誕生し岩瀬に当時最新の近代設備を誇る国保病院が開院し、千葉大学の関連病院として、第一外科の三宅和夫先生が院長として赴任され第一内科より狩野先生がこられ県西の地域病院として発展し、その後、県西病院として現在に至っています。これとともに同窓も県西に多くこられるようになりました。

またさらに昭和48年10月に開かれた大学として、教育と研究の新しい仕組みを掲げて、茨城県ではじめての総合大学が筑波に開校し医学専門群がおかれ、昭和51年には、附属病院が開院されました。此のときに千葉大学の医学部も、東京大学、東京医科大学とともに参加、内科東條静夫先生、外科岩

崎洋治先生、脳外科牧豊先生、精神科小泉準三先生、病理小形岳三郎先生、公衆衛生藤原喜久雄先生の教授陣とともに多くの同窓が筑波に来られ茨城県の同窓が急激に増加いたしました。われわれにとっては非常に心強くまたあらゆるところで助けていただきお世話になりました。

茨城ゐのはな会総会は毎年県南、県中を中心として開催されておりましたが、以前から会則も会の名簿も不備であったので、新たに整備する必要があるとの要請があり、平成2年石川先生の会長の時に、泉武先生、関哲三先生、淵上隆先生と私佐藤と水戸で会合を開き、会則の大綱に付いて協議会を開きました。その時議題で問題になったのは、できるだけ大勢の方に参加して戴き会を盛大にしたいとの思いがあつて、会員の範囲について千葉大学の医学部を卒業した者にさらに医学の研究を本学でやられた方も会員としてはいつて頂くこととし、このとき取りあえず、第1回の会則ができました。水戸中央ブロック幹事の努力で、茨城ゐのはな会の名簿がつくられたのを記念して総会を、盛大に行うこととなり、寄付を募り、水戸プラザホテルで第76回の茨城ゐのはな会総会を、大学より大藤正雄先生また同窓の行天良雄氏を迎え開催いたしました。

その後水戸と県南土浦つくばで総会が開催されていましたが、平成10年茂在先生の会長、事務局の高田彰先生のととき淵上先生を中心として会議を開き会則は、現在のものとなりました。問題の会員については、茨城県内に在住または職を有する千葉大学医学部を卒業したもの及び在籍したことのあるもので、本会の趣旨に賛同し入会を希望するものとなりました。このときまで毎年開いていた同窓会総会も2年に1回と決めました。また幹事も県内の市、郡部に34人おき連絡を密にすることにしました。事務局も筑波大学内高田彰先生にお願いすることとなり会としての基礎が固まりました。平成10年土浦での総会にて三宅和夫先生が会長に就任されました。事務局は高田先生より、つくばセントラル病院の竹島徹先生、次に、きぬ医師会病院の中川邦夫先生から現在の筑波メディカルセンターの石川詔雄先生となっております。

現在まで、2年に1回の総会のほか、年に数回幹

第4章 同窓の発展

事会が開催され、本部の通達の討議、総会の準備の相談その他必要事項の相談をいたしておりました。先日の日本医師会会長の選挙でも急遽委員会をひらき、茨城県における対策を協議いたしました。以前にくらべ茨城ゐのはな会の組織も活動も軌道に乗ってきており、今後ますますよくなるものと実感しております。又お互いの情報連絡の場として定期的に会報誌を発行していくことになり現在2号まで、出したところです。

又筑波大学ができて、東条先生、牧先生、三宅先生の発起にて出来た七夕会があります。毎年7月7日に、土浦の霞月楼にて集まり、大学の教授等先生方と県内の関連病院（筑波学園病院、筑波メディカルセンター、きぬ医師会病院、鹿島労災病院、筑波セントラル病院、県西総合病院等）の院長、医長等の親睦、連絡、医療の意見交換の会として、続いており大きな役割を、果たしております。

さて最近の県内の医療、介護体制を見ると、保険医療の締め付けと医師不足の影響から危機的状态に陥り、急速に整備し、改善する必要がある、また保健予防活動についても、われわれ医師の使命は極めて重要な時代になってきております。このときに当たり県内の同窓の会員相互の親睦と向上のため茨城県ゐのはな同窓会の発展を目指し、又今後の活動の方針として、千葉大学との情報交換、ゐのはな同窓会本部の考えの伝達、又関東ブロックゐのはな会（東京、神奈川、埼玉、栃木、群馬）の同窓会と横の連絡を取りながら若い人の力を積極的に取り入れながら努力していきたいと考えております。

私も20数年茨城県医師会で医療保険、学術の担当としてあらゆるところで同窓の先生方にお世話になり、感謝しておりますが、ゐのはな同窓会がさらに発展することを祈念しております。

（さとう ただお）